

13 日本最古のマラソン競争 安政の遠足トオアシ

清 水 英 一

碓氷安中医師会会史編集委員会

安中藩十五代板倉勝明藩主の、「種痘事業」「人口対策」に関しては、既に総会にて報告した所であるが、今回侯が実施した、日本最古の体育行事である、長距離競走所謂「安政の遠足」(侍マラソン)について、「安中市史」に依って報告する。

板倉勝明侯は夙に学者大名として高名で、水戸烈公・松平春嶽と親交があり、大日本史を贈られている。その影響か、日本近海に外国船が出没するや、逸早く高島流西洋砲術・洋式操練を取入れ、大砲を鑄造し、火薬も調製し、試射や演習を実施した。嘉永六年黒船来航に当り、幕命によって武器を江戸藩邸に備え、一方藩士の心身鍛練の目的で、安中城と碓氷峠の間二十九杆、標高差千米の競走、世に言う「安政の遠足」或は侍マラソンを実施した。

安政二年春、遠足が行われたが、五回にわたってその状況を示す古文書が発見された。

【其の一】五月六日殿様参勤交代で安中着城。五人の家臣を「嶮岨の遠足掛」に任ず。

覚

一、海保順三他四名、安中表へ罷越、嶮岨之遠足掛被仰付候間近々出立可申。以上

五月六日(後畧)

【其の二】板倉勝明碓氷峠へ遠馬につき廻状。十一日殿様と御家中御附添峠まで御遠馬なされ候旨、只今廻状到着いたし候。(後畧) 以上

卯五月十日 坂本宿名主甚左衛門 印

碓氷峠 曾根出羽様 (熊野神社神官)

【其の三】御領主峠迄御遠馬御休御用諸事留

安政二卯年五月十一日

御本陣 金井三郎左衛門

馳走がましき儀いたし申まじく候 (後畧)

【其の四】遠足規定書 (著者口語訳)

覚 五月廿二日

五十才以下諸士、碓氷峠迄遠足之義命ぜら候、六七人ツ、申合せ前日に大目付に届け、当日は明ヶ六ツの太鼓を合図に出宅し、一緒に城門にて近習頭に届けて出発せよ。ひとたび届出た上は、如何なる風雨でも出発せよ。碓氷関所番頭、峠神官より通過時刻・到着時刻を記した書付を受取り、大目付へ届ける事。足痛等で延着するは已むを得ぬが、馬や駕籠を雇い歸り早着と偽った者、後日殿様の御耳に達せば、厳しい御沙汰ありと心得べし。

【其の五】安中御城内御諸士御遠足着帳

(峠神官組頭曾根家所蔵)

五月十九日巳の上刻頃参着

黒田誠三郎殿 他六名

始めての日につき、熊野官へ御神酒献上、酒少々一同も頂戴、御肴、ひだら、みの干し大根、きうりもみ、力餅五ヶ、茶を差上候。御初穂料、式拾疋御一同様、丹所太平様拾疋

同廿一日辰上刻参着 根本國次郎殿他六名

同廿二日巳上刻参着 福長五郎次殿他七名

(中畧 十三班)

六月廿八日辰ノ中刻頃参着 (最終組)

飯島伴四郎殿 他一名

計十六班、参加人員九十八名

この遠足の所要時間は、六ツ刻(午前六時)出宅し、速い群で二時間四十分から三時間二十分、遅い群で四時間乃至四時間四十分程を要するのである。昼食を取り暫く休息の上、同じ険路を引き返す六十軒になんなんとす、五十才以下の全藩士に課した、大へん過酷なトレイニングと言へる。記録によれば唯一人腹痛のため、昼食を辞退した者があつたが全員完走したらしい。

この記録は昭和三十年春、碓氷峠神官宅の「御遠走着帳」の発見が、朝日新聞に「日本最古のマラソン」と紹介され、その秋伊馬春部氏の「安政奇聞まらそん得」のラジオドラマが放送された。その後次々に資料が発見されて、その全容が明らかになった。

現在この行事を記念する為、当地において毎春五月中旬、安中城跡と碓氷関所・碓氷峠間に「安政の遠足」マラソンが実施され、既に三十回に及んでいる。